

## 山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

第49回緑蔭禅の集い  
延期となりました。

第30回子供禅の集い

対象：小学校3～6年生

主催：仁叟寺・龍源寺

日程：7月26日～27日

(1泊2日)参加者募集中

※会場はいつでも仁叟寺

平成23年

仁叟寺年間行事予定

1/1～1/3 年頭祈禱・年賀受

1/4～1/7 年始挨拶

1/10 年賀寺例

2/3 大節分会

2/15 釈尊涅槃会

3/13 大般若会大施食会法要

3月中旬 筆供養法要

3/18～3/24 春季彼岸会

4/8 釈尊降誕会(花祭り)

6/18～6/19

第49回青年会緑蔭禅の集い  
(震災の影響で延期になりました)

7/13～7/16

京浜地区檀信徒棚経

7/26～7/27

第30回子供禅の集い

8/10 中元寺例

8/13～8/16 盂蘭盆会

9/20～9/26 秋季彼岸会

10/15 檀信徒参拝研修旅行

12/8 釈尊成道会

12/10 歳暮寺例

12/31 除夜会

※毎週土・日曜日 書道教室

※毎週水曜日 定例坐禅会

※隔週水曜日

梅花講・琴教室・華道教室

## 仁叟寺本堂耐震強化工事施工



## ↑ 工事中の本堂の様子

去る3月11日に発生いたしました東日本大震災。被災され亡くなられた方々のご冥福、被災された方々のお見舞い、被災地域の一日でも早い復旧復興を祈念申し上げます。同震災での支援活動については、後述する通りでございますのでご一読下さい。

さて、当山では、地震当日は丁度恒例の大般若会及び大施食会法要が翌々日となる同月13日に控えており、住職夫妻・東堂夫妻・副住職が在山し、準備を進めておりました。すぐに本堂ほか建物内・境内地・墓地等々の点検確認をした結果、墓地の燈籠が一基転倒していた他は、被害は皆無でございました。しかしながら、大きな揺れであり、その後の余震も心配されておりました。そこで、大般若会及び大施食会法要終了後に、宮大工の堂宮入秀社寺建築株式会社に依頼し、耐震診断を実施。結果、すぐに補修及び補強工事となり、花祭り前の4月6日に本堂屋根裏に雲筋交い250本を入れる大掛かりな耐震補修工事を施工いたしました。

当日は、早朝から夜遅く迄総勢10名程の職人が屋根裏を中心に補修工事を行いました。備えあれば憂いなし、先の大震災を受けて同工事を執り行わせて頂きました事、茲にご報告申し上げます。

→ 職人さんにより盤石に補強された本堂屋根裏





# 自らを洲とする -東日本大震災支援活動-



↑ 第一回目南相馬市ボランティア有志一同  
↓ 第二回目南相馬市ボランティア有志一同



↑ 多数の御遺骨を預かる新祥寺様ご本堂。当初は400霊、現在は50霊程。身元不明の御遺骨も少なくありません。



3月11日に未曾有の天災である東日本大震災が発生しました。

↑ 上州名物けんちん汁300人前 副住職の友人であり大本山總持寺様で共に修行した仲間が福島県南相馬市原町区におられ、当山でも、地震発生以降から何か出来る支援をと、常に考えておりました。その友人であります南相馬市の新祥寺副住職・野田精頭老師

が当地での窓口になってくださり、また県内外の多くの方々のご協力のもと、有志と共に5月31日と6月14日の二回に分けて避難所にての炊き出し、支援物資の寄附、位牌の寄贈、慰霊他のボランティア活動を勤めました。ちなみに、野田副住職様は、平成16年4月29日の龍源寺大施食会兼蚕影山例祭の際に、講師として御来寺され御法話を賜っておりますので、御存知の檀信徒の方々もおられるかと思えます。更に、6月18日には大震災から丁度百箇日ということもあり、当山末寺龍源寺本堂にて大震災物故者合同百ヶ日追善供養法要を、高崎市赤坂町長松寺・山端紹之老師と共に、檀信徒総代役員さんや牛伏ドリームセンターに福島県から避難されておられます被災者の方々をお招きし、修行致しました。偶然な事に、南

相馬市から避難されておりました方は、前述した新祥寺様のお檀家様でした。

未だ瓦礫が多数残る被災地の風景→  
↓ 集められた瓦礫の山 (共に6月撮影)







↑ 龍源寺本堂での大震災物故者合同百ヶ日法要

↑ 福島民報地域面 (6/19付)  
↓ 上毛新聞社会面 (6/19付)

牛伏ドリームセンターから一番近い寺院ということもあり、偶然参拝に見えられたのが、副住職が第一回目の炊き出しに伺う前日である5月30日のこと。そういった不思議なご縁や、また副住職が現在、高崎市吉井地域審議会の委員も勤めており、その会議の際に市にご提案致しましたところ、ご賛同下さり、合同百ヶ日法要が当山にて修行された事となりました。



炊き出しの具材は、龍源寺主催の大本山總持寺研修旅行の際に呼び掛けました所、仁叟寺及び龍源寺檀信徒の多数の皆様方より寄進いただきました。この事を炊き出しの際に申し上げた所、被災された方々も農林水産業に従事する方々が多く、非常に感謝しておられました。なお、同ボランティア活動にご賛同賜りました方々はもとより、御協力いただきました皆様方には、本当に有難うございました。

詳細は、当山及び龍源寺のHPや副住職の管理するブログ等にて紹介しております通りです。被災地や避難所を伺いましたが、正に言葉にならないと云うことは、このようなことを云うのであらうと感じた次第です。今回の大災害は、地震のみならず、津波・余震・原発事故・風評被害とその影響は非常に大きいものです。我々の生活も少なからず影響を受けております。しかしながら、このような時

からこそ、我々の出来ること、仏教的精神に則た共に助け合い頑張り合うことこそが、大切であるかと思っております。

不肖ながら、副住職が炊き出しに伺った避難所にて挨拶とお話をする機会もございました。拙僧が一番伝えたい事をお話いたしました。以下、その挨拶の要約を結びの言葉といたします。

『皆様方は、1人ではない。どこかで思いを持っている人がおります。ゆっくりと、こつこつと、少しずつでもいい、前へ進んでいくお手伝いを微力ながらさせていただきます。共にがんばろう日本! がんばろう東北!』

↓ 福島民報 (6/20付)





そうわかい

## 住職が群馬県總和会長に就任いたしました



↑ 大本山總持寺大祖堂

去る5月18日に、群馬県總和会及び嶽山会の総会が行われました。その席上、住職が同会の会長職を拜命致しました。

群馬県總和会は、曹洞宗の大本山である横浜の總持寺の系列の曹洞宗寺院組織です。会員はおよそ200名程の宗侶が所属しており、曹洞宗の発展、大本山總持寺様の護持と布教教化の為、活動をしております。

群馬県總和会は、前住職である渡辺隆司東堂、前々住職である渡辺石橋大和尚も、その任に当たりました。住職も還暦を越え、当山の興隆はもとより宗門にも微力ながら、貢献をさせていただこうと思っております。檀信徒の皆様方に於かれましては、ご法事等の檀務が宗門行事出席の為、副住職に任せる場面も多々あるかとも思われますが、何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

## 栃木県古刹御寺院参拝研修旅行にご参加下さい

今秋10月15日（土）に、毎年好評で多くの皆様方のご参加をいただいている仁叟寺恒例の参拝研修旅行を行ないます。今回は、隣県栃木県の古刹御寺院様への参拝研修旅行をいたします。本年3月に北関東自動車道も完成、近くて遠い隣県がぐっと近くなりました。そこで、今回の参拝研修旅行は、栃木県の古刹御寺院様を巡る研修旅行とさせていただきました。参加費は9,500円（参拝料・保険代・高速代・バス代・昼食代・献香料・記念写真代等々他含む）。旅程は下記の通りです。是非この機会に、家族友人知人お誘い合わせの上、お申し込み下さい。

●旅程● 仁叟寺→大谷観音→曹洞宗大雄寺様→馬頭（昼食）→益子焼窯元センター→浄土真宗総本山・高田山専修寺様→仁叟寺



↑ 高田山専修寺様  
（浄土真宗高田派総本山）



↑ 曹洞古刹・大雄寺様

→ 大谷観音



## 行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

東日本大震災は、大きな影響を今なお我々に与えております。地震はもとより余震・津波・原発事故・風評被害等々、まだまだ先行き不透明な情勢です。特に原発事故に伴う放射能問題はすぐに解決出来る事案ではございません。この先について我々は、正しい知識を身に付け、自衛を図っていかなくてはなりません。小さくても些細な事でも、出来る事をこつこつと一つずつしっかりと行じていく事こそ、必要であるかと思ひます。共に頑張る、前へ前へ歩いていければと思っております。合掌。（副住職記）



↑ がんばろう！節電